

3月植えカボチャにおける凍害、強風害軽減技術

3月植えカボチャで、苗全体をマルチ下に定植すると、降霜、強風による茎葉折損を抑制し、収量が安定

背景・目的

- ・3月植え7月どりの普通作型の加工・業務用カボチャは、降霜、凍害、季節風の影響が問題
- ・生育初期の降霜による凍害及び強風による茎葉の折損を抑制する植付け法を開発

成果の内容

- ・3月植えでは生育初期の降霜時に凍害が発生するが、苗全体をマルチ下に定植(図1、以下「マルチ下植え」)することで、降霜時にも凍害が発生せず、凍害を抑制(データ略)
- ・強風による茎葉の折損を抑制(図2)
- ・欠株発生が抑制され、商品収量が安定(図2)

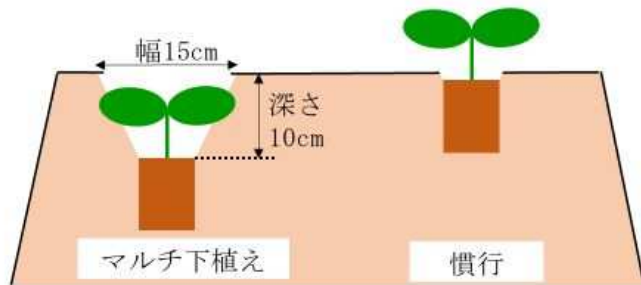


図1 マルチ下植えのイメージ

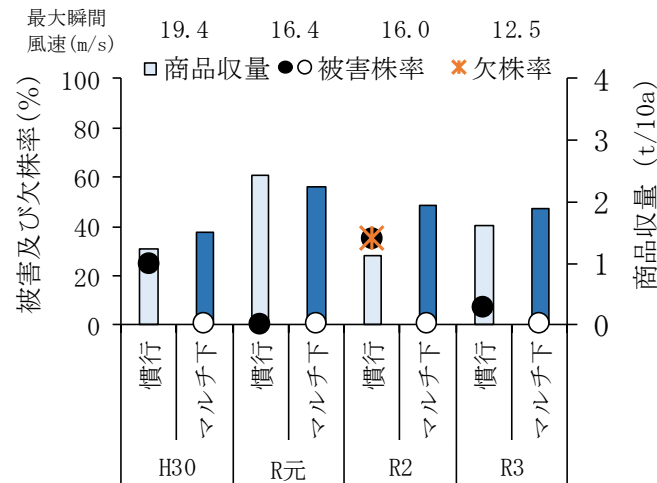


図2 マルチ下植えが強風害、欠株及び商品収量に及ぼす影響

注1) 強風による被害株率: 強風を受けた4~11日後に茎葉折損発生株数の全体に占める割合
注2) 強風による欠株は、令和2年慣行区以外発生なし

期待される効果

- 降霜による凍害及び強風による茎葉の折損を抑制



カボチャの安定生産

- 普及対象・範囲
加工・業務用カボチャ生産者

注) 作溝に降雨後の滞水がないように、栽培前に深耕などの排水対策を実施する。

鹿児島県農業開発総合センター
大隅支場園芸作物研究室

(R04)